別記第８号様式（第１４条関係）

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	江東区亀戸6-57-11エスティメゾン1.2階
施設名	アスクバイリンガル保育園 亀戸

１　活動のテーマ

〈テーマ〉

世界について

〈テーマの設定理由〉

バイリンガルということで子どもたちが他の国や動物について興味をもっているためこのテーマを設定した。

２　活動スケジュール

11月から３月まで行い、ネイティブの講師を招致し他国の文化に直接触れる機会を創出することで深く探究活動ができるようにする。
世界地図の地域ごとの色を見て日本の大きさを見て他国の大きさを知る。自己紹介で講師の手本の言葉をまねしながら自分の名前を話す。英語講師の質問に答えて問いかけてを繰り返し行い全体で参加ができるようにする。世界地図はクラスにあるものを利用し、取り組みやすいようにする。
1月以降は、地図や国旗だけではなく、言語そのものにも着目をしていく。動物の鳴き声と日本語の鳴き声の違いについて探究をする。

３　活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

・絵本・・・海外の国旗のデザインを知るため。
・地球儀・・・見つけた国旗の国の場所を地球儀を使用して知る。
・世界のことばあそびえほん／英語かるた・・・言語について探求を深めるときに使用した

4　探究活動の実践

〈活動の内容〉

・世界地図の地域ごとの色や大きさを見る。
・自己紹介では自分自身で考えた文章を講師と一緒に英語に訳して発言する。
・動物や物の色を考え保育室内にある玩具や道具などで同じものを見つける。実際の色を想像して書く。また、前回の内容から製作したフラッグを使い、一人ずつ何を描いたのか発表を行う。子どもの発言を英語に代えて伝え、描いた物、色、数などを一緒に見ていく。
カードの国旗から、世界地図のどこに存在するか当てゲームを行う。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

・日本の大きさと他国の大きさの違いに驚く様子がある。
・記憶している単語や国名などを声に出したり、好きな色を見つけると興味を持って発言する姿がみられる。また、サルの鳴き声は日本はウッキーだけど英語はウッウアッアだよね！と知っている鳴き声を共有する姿がみられる。
・自身の作品を発表する際は、緊張している様子があったが、挑戦できた。
・動物や物の色について、オリジナルの色に塗る友だちに対して求められている塗り方を説明する姿が見られる。

5　振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

知っている国の形を見て気づきを伝える姿があり、受容、共感していくように援助していった。
年度の終わりには、英語での問いに以前より理解して頷く様子や日本語と英語を交えて答える様子があることに気付く。友だちが製作したものに共感したり、違った答えをするといい直して代わりに答えたりする姿がある。優しい言葉で伝えられるよう適度に声掛けしていった。

別記第８号様式（第１４条関係）

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	江東区亀戸6-57-11エスティメゾン1.2階
施設名	アスクバイリンガル保育園 亀戸

１　活動のテーマ

〈テーマ〉

音の鳴る仕組み

〈テーマの設定理由〉

最近は廃材を使ってマラカスを作る姿があり、物によって「なんの音？」と友だち同士で話す姿があるため、その疑問を問いとして設定する。

２　活動スケジュール

11月から3月まで行い、音楽の講師を招致し楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出した。
カードを使用し、友だちとオノマトペや動きを考え発言し合う。他者のイメージを受け入れる。
身近なものを使用し、手で押さえることどんな音の変化や違いがあるかなどを知る。
楽器のカードを使用し種類を分けてみる。楽器がどのように音を鳴らしているのかを実際に使って感じてみる。

３　活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

ピアノ、カード、ペットボトル、割りばし、ビーズ・・・ピアノを使い音を鳴らしたり、写真を使い音をイメージし発言できる場を設ける。いくつかの廃材を用意し、さまざまな音を感じられるような環境を設定する。
新聞紙、廃材、楽器、カード・・・瓶を使用し、音の響き方や変化を感じられるようにする。楽器のカードを使用し、種類や鳴らし方などを知ることができるようにする。
楽器、廃材、エッグマラカス・・・一人ひとりが楽器に触れ実際に音を鳴らしたり音の鳴り方を感じられるようにする。素材を使い、講師の楽器と同じ音にするための素材を探す中で、音の高さや違いを感じられるようにする。

4　探究活動の実践

〈活動の内容〉

・カードを見て友だちとオノマトペや動きを考え発言し合った。環境音の動きをイメージし表現し合った。オノマトペに合ったカードを探し友だちとゲームを行なった。
・表情の絵カードを使ってピアノの音を聞いて感じた表情の絵カードを選ぶ。ピアノの音の高さやメロディーの雰囲気を聴いて選ぶ。ピアノに合わせて動物になったり、ペットボトルの中にビーズを入れて音の変化を感じたりする。
・楽器のカードを使い種類分けを行う。楽器がどのように音を鳴らしているのかを実際に使って感じる。好きな楽器を手に持ち音楽に合わせて楽器を鳴らし遊ぶ。自身で作成した楽器を使用したり、新しい楽器の作成を考えたりする発言を楽しむ。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

・「ポツポツ」の動きはどんなかな？と聞かれると一人ひとりがイメージする動きを表現していた。友だちとイメージが重なると共有を楽しみ、異なった場合にも他者のイメージを受け入れ「確かに」と表現の違いを楽しんでいた。
・絵カードを使ってクイズをしたときは、「もぐもぐは？」と聞かれ「おかし」と答えたり、ピアノに合わせて一人ひとりが好きなように体を動かしたりして楽しんで参加していた。ペットボトルにビーズを入れたときは大きな音になったことを友だちと共感しあっていた。
瓶をおさえることで音の変化や違いなどを感じた。おさえる場所で音が変わることを理解した後は瓶の上や下など様々な場所をおさえ音の変化を知ろうとする姿がみられた。楽器のカードを見て正しい配置に置く遊びをする。その中で自分の知っている楽器を見つけ発言したり友だちと共有を楽しむ姿がみられる。
・講師の楽器を見て何で作られているのかや作成を楽しみにする様子がある。
素材選びの際に早い者勝ちになりやすく、友だちとの譲り合いが難しい場面が多かった。実際に音を探すと、音の違いを感じ素材の量や種類を変更する様子が見られた。

5　振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

他者のイメージを否定する場面があり、個性を自由に表現できる場とする援助を心がけていった。
途中参加で入りづらそうにしている子に対し、どんなことをしているのかや、気づいたことに代弁して共感したりして前向きに参加できるようにしていった。理解力があり、感覚も鋭く音の違いを明確に答えていた。積極的に答えることで周りの子も答えやすくなっていた。
3本のアルミ缶でドレミの音階になっていることに気付くなど、子どもたちが話し合ったことによる気づきがあり、積極的に参加している様子があった。音の変化を聞くことができるように落ち着いた環境を用意し活動に集中できるようにしていった。

別記第８号様式（第１４条関係）

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	江東区亀戸6-57-11エスティメゾン1.2階
施設名	アスクバイリンガル保育園 亀戸

１　活動のテーマ

〈テーマ〉

からだのつくり

〈テーマの設定理由〉

3～5歳児の異年齢クラスという中で自分は何ができるかを問いとして設定する。

２　活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に2回体操の講師を招致し身体の動かし方についてこどもたちの前で実演をしたり、探究心を書き立てる
それぞれ体力測定を行う。測定を行って各項目を得意不得意の5段階評価する。周りの子の結果を見て違いを知り、一緒に楽しめるあそびは何か探す。不得意なことを得意に出来るようにするにはどうしたらいいか考える。自分が得意とする分野を見つけることや他者の得意分野を知り、役割分担や支え合いを学ぶ。探究の様子は動画や写真で記録する。後半はボールなどの道具を使用した際の体の動かし方についても探究を深めていく。

３　活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

プレイマット・・・プレイマット（丸型）を配置し、一人ひとりの運動能力を確認していく。
跳び箱、平均台、マット・・・跳び箱や平均台の上に乗り、高い位置から飛び降りたり、跳び箱の上で立ち上がることでバランス感覚を養えるようにする。
マット（丸形）の上で足踏みをする際に、保育者がそばで同じ動きをすることで視覚的にまねしやすいようにする。
ロープ、マット・・・自由に動ける十分なスペースを用意しする。ロープを設置しサーキットのように回ることができる環境にする。講師がマットを支え、相撲のようにマットを押すことで押す力を感じやすい環境を用意する。ロープを講師と引っ張り合うことで引く力を利用しつつ、体の使い方を感じられるようにする。
ボール大小、マット・・・キャッチボールが上手になる遊びを聞かれ転がして取る遊びをする。

4　探究活動の実践

〈活動の内容〉

・マットの上をジャンプし距離を測る。マットの上で足踏みをし回数を測る。片足立ちを行いバランス感覚を測る。
・前回の記録を基に伸ばしたい記録をどんな方法で伸ばしていくかを話し合う。
・バランス感覚を養うためにケンケンパを行うが、リレーで行ったほうが楽しそうと提案をし、リレー形式で行う。結果集中力や意欲が向上し真剣に取り組むすがたが見られる。
・「相撲！」「跳び箱！」と自身の知識から押す力を必要とする遊びを探し発言を楽しむ。
・前回の記録や結果から、相撲であれば押す力が必要であると考え実行する。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

・友だちの記録を越えようと意欲的に挑戦をする姿が見られる。2分間片足で立つことができる。自分より高い記録が出た時に友だちにを賞賛することができる。
・「足を速く動かすにはどうしたらいい？」と聞かれ「かけっこをたくさんする」と答えたり「高く飛ぶための練習ってなんだろう」と友だちと考えたり意見を発現する。
・遠くに跳びたいと希望する園児自ら練習方法を提案しようとするが、現実的に難しいものが多く悩む様子が見られた。友達と相談することで保育室内でもできる方法を発見する。
・足を使わずに進むことに挑戦するが、足を上げている体勢を続けることが難しい様子であった。自身の結果を聞くと次回は記録を伸ばしたいと意欲的な様子であった。
・マットを押すことで押す力を実際に感じるが手だけでまなく体全体で力を使うと感じたことを発言し共有する姿がみられた。友だちと引っ張り合うときに、勝負だ！と意気込み楽しむ姿がみられる。引っ張るときに手が痛くなることを友だち話し、痛くならない方法を一緒に考える。

5　振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

一人ひとりの発達の違いや得意の違いがよく出ていた。運動が苦手な子に対して、結果を知るだけではなく挑戦を続け伸ばしていくための意欲向上の方法に難しさを感じた。
子ども自身で練習方法や探求をすることができていたので良かった。子ども自身で探求することができ、実際に行動してみた結果まで伝えることができよかった。
普段の遊びでも全身を使う遊びを取り入れていたため、理解も早く子ども自身で考え発言する機会が多く見られた。一人ではできないことも協力することでより力を出すことができると考えている様子が見られ良かった。年少児は年長年中児の様子を見ていたことからヒントを得て、自発的な発言が多くみられた。結果に対して理解が難しいことも多いので、理解できるように繰り返し伝え意欲に繋げていく。